

第2回「食のみやこ熊本県」創造推進ビジョン有識者会議 議事概要

【日 時】令和7年（2025年）5月26日（月）16時00分～17時30分

【場 所】antica loanda MIYAMOTO（アンティカ・ロカンダ・ミヤモト）

（熊本市中央区新屋敷 1-9-15）

氏 名	役 職 等
有村 友美	人吉温泉あゆの里 代表取締役社長
桑原 健太	熊本県青年農業者クラブ連絡協議会 会長
けんさむ	けんさむの熊本紹介 ブロガー
島田 源太	熊本経済同友会 常任幹事
長尾 康	SGS 株式会社 代表取締役/CEO
外村 仁	フードテックエバンジェリスト
宮本 けんしん	Antica loanda MIYAMOTO オーナーシェフ
守田 真里子	尚絅大学生生活科学部教授
山本 浩二	JA 熊本中央会 常務理事

【有識者委員（敬称略、五十音順）】

＜事務局（熊本県）＞

木村 敬（熊本県知事）

辻井 翔太（食のみやこ推進局長）

杉谷 将洋（食のみやこ推進局 政策調整監）

安武 智臣（食のみやこ推進局 流通アグリビジネス課 審議員）

渡辺 陽司（食のみやこ推進局 販路拡大ビジネス課 課長）

【議事要旨】

1. 開会

2. 知事挨拶

○木村知事

- ・本日は有識者の方にお集まりいただき感謝申し上げます。
- ・今回は、宮本委員のお店での開催ということで、こうした空間での意見交換をすることも「食のみやこ熊本県」の創造に向けて大事な要素ではないかと思う。
- ・熊本の農林畜水産物の更なる高付加価値化だけでなく、熊本らしさを生かし、アップデートしながら、世界中から人を呼び込めるような熊本を作っていきたい。
- ・「美味しいは楽しい。美味しいは美しい。」と思っている。本日は、自由闊達にアイデアを出していただきたい。また、こうした食の輪が熊本内外に広まっていくことが「食のみやこ熊本県」の創造につながっていくと思う。

3. 委員紹介

(山本委員から自己紹介 ※前回の有識者会議(令和7年2月17日(月))では代理者であったため)

4. 意見交換

(1) 事務局説明

- ・辻井局長より会議資料に沿って概要説明。

(2) 意見交換

委員からの主な意見は以下のとおり。

(有村委員)

- ・インバウンドについては、特定の国に偏らないバランスのいい受け入れが望ましい。
- ・人吉球磨では欧米豪の富裕層をターゲットにしている。熊本・九州の知名度は低いですが、逆にチャンスであり、熊本にしかない強みを作っていくことが重要。グルメツアーは刺さるのではないかな。
- ・熊本の食の強みを表現するためにシェフの存在が重要。技術レベルではなくて、地元のものを使ってどう表現していくか、食の禁忌や宗教的なニーズに応じてどう対応していくか、食関係者が知識等をアップデートすることが重要。

(桑原委員)

- ・ECの拡充強化について、県がイチから新しくECサイトを作ることではなく、既に取り組まれているECの各々のページに飛ばせるような形であれば理想的ではないか。熊本はこれまで食料供給基地として、生産を効率化して、流通に乗せるという生産者等が多い中で、そういった方々にECによる直接販売等を強いるのは負担になるのであまり効果的ではない。
- ・すでに取り組んでいる生産者等をフィーチャーしていく方向性が望ましい。誰が作っているか、顔を見せていく、という生産者等のパーソナリティの部分を出していくことが、ECの強化や食のみやこ熊本としての食のイメージアップに効果的になってくると思う。

(けんさむ委員)

- ・企業のトップが急に EC に白羽の矢を立てて、とりあえず EC 進出だと夢を描いて出展される方は多いが、うまくいかずに撤退されるケースが多い。戦略を立てずに出展すると、価格競争等に飲み込まれ、淘汰される。
- ・一方で、出展していきなり軌道に乗っていくケースもある。価格優位性が非常にある、紹介ページを作るセンスがある、他が扱っていないものを仕入れることができるなど。とりあえず EC！ではなく、どこに熊本の利点があって、どのように展開していくかを戦略的に考えていく必要がある。マーケティング戦略をしっかりと立てて EC 化に取り組む必要がある。
- ・県民の方々にどう伝えるか。プロジェクト自体はものすごくいいものだと思うが、例えば「うどん県香川」など、小学生でも理解しやすいようなシンプルな形で発信できるといいのでは。
- ・行政が単にアカウント作るだけでは効果が薄い。コンテンツ制作の方が情報拡散につながり、熊本のブランド力が上がると思う。

(島田委員)

- ・経済界として、人材確保、人材流出を防ぐという点では、やはり教育は重要。小さいころからしっかり教育現場で伝えていくことによって、食への理解ひいては後継者確保につながる。
- ・食のイメージが低いという部分に関して、逆にこの 28 位という順位を何位まで持っていくのか、具体的な数値目標も必要ではないか。
- ・消費に関して、我々経済人では、企業ごとに交際費がある。これをうまく活用する、例えば県外から来られる経済団体とか、医師会も含めての集まりをやることによって、食の消費額が上がっていくのではないか。若い経営者等にもしっかりお金を使っていたくような理解をしてほしいので、若い世代の意見を聞き入れてみたらどうか。
- ・食関係者側も先進地域視察・交流等を通じて学んでいかなければならない。

(長尾委員)

- ・「くまもとモン×〇〇」ジャック事業に携わっているが、この事業について興味を持たれている方が多い。他者から聞かれるのは、「誰が動いているのか」という点。ビジョンで位置付けるプロジェクトに参画する人、「どこの誰が」という登場人物がわかるようになってくると、またその人たちが発信していくことにつながるので、ネットワーク（組織体）等を作り、協力者をどんどん巻き込んでいけたらいい。
- ・百貨店やスーパーでは狙うターゲット層が異なるように、「食のみやこ熊本県」のターゲットを明確化するのも必要ではないか。

(外村委員)

- ・EC 化に取り組むに当たって、熊本県がやるなら普通の EC サイトにはない付加価値を出す必要がある。県のサイトでしか買えないなどのプレミアム感、また、単に商品名と値段の表示ではなく原材料や製法、歴史などの背景のストーリーで価値を高めるなど。(例:地域の独自種である阿蘇高菜を、伝統製法で漬け、無添加である 等)

- ・熊本のプレミアムシェフ事業はすばらしいリストであるが、現在は日英のみ。現状の観光客層を考えると、韓国・台湾・中国観光客向けの言語も追加した方が良く思う。
- ・料理人の育成には大賛成だが、時間がかかる事業。すぐにできることとして、熊本出身で県外で活躍しているシェフ（パリの三つ星フレンチ料理長の吉富力良氏、NYで一つ星の寿司店の宇井野詩音氏、東京で活躍中の田嶋善文氏 等）とうまく連携しながら、県産食材や熊本の魅力のPR等ができればいい。
- ・小さいころからの教育という点で、給食は重要。子供が親に教えるくらいになればいい。
- ・最終的には食で世界を幸せにし、県民も豊かになるという思いが重要。
- ・SDGsについては、ただ計画に入れるのではなく、本当に実行していただきたい。（廃棄食材を使った熊本ならではの商品開発等）

（宮本委員）

- ・県民アンケート調査結果（資料 P18）を見て、農業産出額が全国トップクラスでも食のイメージが低い現状なので、農と食が上手く結び付いていないと感じた。
- ・県民への意識調査の結果で、「食に時間やお金をかけることに価値を感じるか」について「ややそう思う」が半分程度。今までの熊本の値段を考えて食の単価を上げることを県民が許すかどうか。私のお店の場合だと基本的に6割が県外客で、4割は県内客だが、価格転嫁は難しい環境にはあるし、複雑な問題が絡む。
- ・なんでも幅広く取り組むのではなく、期間とテーマを決めて集中的に取り組む方がいいのではないか。
- ・いい食文化があるとビジネスにも繋がる（京都やサンセバスチャンがいい事例）

（守田委員）

- ・小山特別アドバイザーから、子供たちの食の教育を進めてはどうかという意見があったが、農林水産部と連携して熊本の食材を使っている。毎月19日食育の日には、ふるさと（熊）くま（産）さんデーと称して、郷土料理を給食で紹介している。
- ・生産者にインタビューして、熊本の食材の良さを伝えるための取り組みもしている。
- ・我々も給食の時間に子供たちが見る郷土料理のクイズなど、5分ぐらいの動画を作成し、紹介している。
- ・給食費を1食300円で運営していくので現場は大変。食のみやこ熊本県の取り組みを進めるにあたって、ぜひ補助金等、教育委員会との連携をお願いしたい。
- ・ビジョンの中で、目指す姿が熊本の食で「世界の胃袋を掴み」の表現は気になる。とても昭和の男性的と感じた。「世界を魅了し」とか、「世界に発信し」という表現にできないかと思う。もう1点、持続可能な社会のためにSDGsの視点を入れるべきではないかと思う。

(山本委員)

- ・生産者団体の立場で見ると、ビジョンのプロジェクト等が出されてる部分が、稼げる農業、後継者の確保、耕作放棄地等の減少という形で、うまい具合に回っていくといい。
- ・農家の所得向上のためには、いかに消費者に近いところで販売するかという視点が大事。市場だけでなく、量販店やECも含めながらやっていかないといけない。
- ・熊本県民は意外と農業生産額が高いことを知らない。小さいときに、学校給食の中で、熊本のおいしい農産物食べてもらおうと、その記憶というのは必ず残っていくはず。
- ・農林畜水産物のトップセールスは引き続き県と連携していきたい。

委員意見に対する事務局からのコメント

- ・料理人にフォーカスした取組みについて、熊本に縁のある方と連携したり、地産地消だったり、選択と集中を意識しながら取り組んでいく。
- ・ECについて、事業者の状況も考慮しながら、伴走支援も含めた支援体制の在り方を検討していく。
- ・給食について、費用負担面ではなかなか難しいが、何が連携できるかも含めて教育委員会と協議していく。
- ・生産者と料理人の連携は、まさに食のみやこ推進局の意義であり、まずは、食関係者のネットワーク作りに取り組んでいく。
- ・具体化と分かりやすさという点について、県の取組みが県民に伝わるように表現や取組内容を工夫していく。
- ・いただいた意見を踏まえて、ビジョンの磨き上げをし、公表する。引き続きご指導いただきたい。

5. 知事総括

○木村知事

- ・各分野から多くの意見を頂き感謝申し上げる。
- ・県民の方がビジョンについてより良い印象を持ち、食を通してまとまったりワクワクしたりできるような熊本を作っていくために、表現について見直すべきところを見直す。
- ・これまであまりアプローチしてこなかった料理人へフォーカスした取組みを通して、生産者にもさらにスポットが当たるようにしていきたい。
- ・食育は重要。給食だけでなく農業体験などにもつなげていきたい。
- ・ビジョンを推進していく中で、プロジェクト単位で議論していくなど、しっかりと具現化していきたい。
- ・食のみやこの実現に向けて、引き続き御意見を頂きたい。

6. 閉会

- ・ 本日いただいた意見を参考にビジョンの策定を進めていく。
- ・ ビジョンは7月頃までに策定・公表予定。

以上